

科目名	持続可能な社会の課題と政策ケース分析						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	経営学部	配当年次	3 年次	単位数	2 単位
教員名	宮永 健太郎						

授業概要／Course outline

本科目は「ケーススタディ科目」（ビジネスの現場で起きた問題や企業の事例を分析し、実践的な問題解決能力を身に付ける科目）である。通常こうしたケース分析は、ビジネススクールやMBA（経営学修士）課程で取り組むものだが、京都産業大学経営学部では学部生にもそうした実践的な学びをしてもらいたいとの考えから、3年次配当科目として複数のケーススタディ科目を開講している。

本科目は、そんなケーススタディ科目の中の1つであり、扱うテーマは「環境問題」である。具体的には、サステイナブルビジネスやサステイナブルファイナンスの取り組み事例をもとにケース分析を行い、その現状や課題、今後の方向性について学ぶ。また環境問題を引き起こす社会や経済の仕組み、そして持続可能な発展（sustainable development）への移行を阻んでいる仕組みやシステムについてもあわせて検討し、改革に向けた方策を議論していく。

ケーススタディ科目という特性上、本科目は少人数の演習形式で行われ、グループ単位でのディスカッションとプレゼンテーションを中心にややハイレベルな学習を実施する。また教科書も使用するため、入手は必須である。以上の点について了解できる学生のみが、本科目を履修すること。

また本科目の受講生は、第1回を除いて事前課題対応が毎回必須であり、それを済ませないまま講義に出ても出席とカウントされない。加えて、事後課題（レポート）も適宜課される。履修登録にあたっては、ゼミや就活、インターンシップとの両立ができそうかどうかも含めて、これらの点についてじっくり考えておくこと。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／反転授業）

知識やスキルの能動的習得を目指す。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等）／moodle）
moodleでオンライン授業、授業資料の提示ならびに事前課題・事後課題を課す。

・実務経験のある教員による授業

本講義は、持続可能な社会づくりの実践経験を有する教員が担当するほか、持続可能な社会づくりに取り組んでいる実務家もゲストスピーカーとして招き、その内容をご紹介いただくこととなっている。

授業内容・授業計画／Course description・plan

※ゲストスピーカーの調整結果等により、以下の学習内容や学習順は変更される可能性がある。詳しくは第1回の講義で説明する。

第1回 オリエンテーション

持続可能な社会の課題と政策に関して基礎的なイントロダクションを行い、本講義の全体目的を学んでもらう。また併せて、本講義のガイダンスも行う。

第2回 ケース分析①：ビジネスとSDGs/ESG

日本企業を取り巻くSDGsの動向について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第3回 ケース分析②：ビジネスとSDGs/ESG

日本企業を取り巻くESG（環境・社会・ガバナンス）の動向について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第4回 ケース分析③：ビジネスとSDGs/ESG

日本企業によるSDGs/ESG対応のあり方について、CSRの観点を中心に、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第5回 ケース分析④：ごみ問題と循環型社会

ごみ問題と循環型社会づくりをめぐる現状や課題について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第6回 ケース分析⑤：ごみ問題と循環型社会

循環型社会づくりの柱となることが期待されている「サーキュラーエコノミー（循環経済）」について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第7回 ケース分析⑥：ごみ問題と循環型社会

ゲストスピーカー（現在調整中）をお招きし、循環型社会づくりの具体的な取り組みやその成果、今後の展望などについて講演していただく。

第8回 ケース分析⑦：地球温暖化問題と脱炭素社会

地球温暖化問題と脱炭素社会づくりをめぐる現状や課題について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第9回 ケース分析⑧：地球温暖化問題と脱炭素社会

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）を中心に、脱炭素関連の情報開示をめぐる日本企業の動向について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第10回 ケース分析⑨：地球温暖化問題と脱炭素社会

RE100・EP100（再エネ・省エネに関する国際イニシアティブ）を中心に、カーボンニュートラルをめぐる日本企業の動向について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第11回 ケース分析⑩：生物多様性問題と自然共生社会

生物多様性問題と自然共生社会づくりをめぐる現状や課題について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第12回 ケース分析⑪：生物多様性問題と自然共生社会

TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）を中心に、自然共生関連の情報開示をめぐる日本企業の動向について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第13回 ケース分析⑫：生物多様性問題と自然共生社会

FSC認証やMSC認証（生態系保全などを軸とした認証制度）を中心に、原材料調達やネイチャーポジティブをめぐる日本企業の動向について、グループワークやディスカッションを通じて具体的に学ぶ。

第14回 ケース分析⑬：生物多様性問題と自然共生社会

ゲストスピーカー（現在調整中）をお招きし、自然共生社会づくりの具体的な取り組みやその成果、今後の展望などについて講演していただく。

★オンデマンド 全体とりまとめと振り返り

ここまでの講義を振り返り、学習内容を整理する。加えて、本講義で学んだ内容が就職活動時や卒業後にどのように活用できるのかも併せて説明する。動画教材（約90分）の配信時期等、必要な情報は講義の中やmoodleを通じてアナウンスする。

事前・事後学修／Preparation and assignments

事前学修：第1回を除いて、事前課題対応が毎回必須である。それを済ませないまま講義に出ても、出席とカウントされないので注意すること。

事後学修：講義で紹介した参考文献等に目を通し、持続可能な社会の課題と政策についての知識を広げる。

※履修要項では、90分の授業に対し事前・事後学習が180分必要とされている。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・「環境問題とは何か」「なぜ環境問題は起こるのか」「どうすれば環境問題は解決するのか」について、サステイナブルビジネスやサステイナブルファイナンスに関するケーススタディを通じて具体的に把握できるようになること。
- ・日本企業を取り巻くSDGs/ESGの動向、および日本企業によるSDGs/ESG対応について、現状や課題、あるべき姿を考えるための知識を身につけること。
- ・日本企業を取り巻く「サーキュラーエコノミー」「カーボンニュートラル」「ネイチャーポジティブ」の動向、および日本企業による対応について、現状や課題、あるべき姿を考えるための知識を身につけること。
- ・持続可能な発展の実現に向けて、ビジネスを中心とした仕組みやプロセスをデザインするのに必要な基礎的素養を身につけること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|----------|-----------------------|
| ・主体性 | 専門知識・専門技能 |
| ・発信力 | 【経営学部 マネジメント学科】 |
| ・協働性・協調性 | ・アカウンタビリティとガバナンスの基礎知識 |
| | ・実践的なマネジメント力 |

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・本科目の履修に際して、あらかじめ学んでおくべき知識は特にない。その代わり、例えば「将来は環境業界で働きたい」「環境業界に就職が決まったので卒業までに知識を身に付けておきたい」など、環境問題の学習に対する高いモチベーションが必要になる。またすでに説明してきたように、本科目は、事前課題対応と事後課題対応のために相当数の時間外学習を要する。これらの点について了解できる学生のみが、本科目を履修すること。
- ・本科目は少人数の演習形式で行われ、グループ単位でのディスカッションとプレゼンテーションを中心に学習が進むため、受講生の積極的な発言と貢献が求められる。単に出席するだけでは単位認定には至らない。
- ・その他、詳しい内容は第1回目の講義で説明する。

評価方法／Evaluation

平常点100%：グループワークやディスカッション、事前課題・事後課題への対応状況、そして講義時間中の参加姿勢をもとに、総合的に評価する。

【注記】

※出席が3分の2に達しなかった履修生は、出席日数不足によりその時点で自動的に落単となる。その場合の事後救済措置は一切ないので注意すること。

※事前課題対応を済ませていない状態で講義に出ても、出席とカウントされないので注意すること。

※就活やインターンシップを理由とした欠席であっても、欠席扱いになるので注意すること。

※学期末試験は行わない。

教 材／Text and materials

※事前課題対応には教科書を必要とするので、教科書の入手は必須である。

教科書：

宮永健太郎『持続可能な発展の話：「みんなのもの」の経済学』岩波新書、2023年

参考書：

講義中に指示する。

質問や相談の方法／Instructor contact

研究室：第4研究室棟207

オフィスアワー：木曜日昼休み（12:15-13:15）、金曜日3限（13:15-14:45）

連絡先：第1回レジュメに記載するメールアドレス